

【履修モデル1】 様々な地域の特性や文化に関する知識とグローバルな視点を持ち国際社会で活躍する人材

科目区分	授業科目の名称	配当年次								総単位数	
		1年		2年		3年		4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学共通科目	外国語科目	英語 I a [R&W]	1								30
		英語 I b [L&S]	1								
		第二外国語科目 I a	1								
		第二外国語科目 I b	1								
		英語 II a [R&W]		1							
		英語 II b [L&S]		1							
		第二外国語科目 II a		1							
		第二外国語科目 II b		1							
	ビジネス英語 II			2							
	広域科目	哲学入門	2								
歴史学入門		2									
地理学入門		2									
現代と宗教			2								
健康増進の理論			2								
人文地理学				2							
ヨーロッパの歴史				2							
民俗学				2							
データサイエンス概論					2						
インターンシップ					2						
基礎科目	入門科目	国際共創入門	2							18	
		経済学概論 I	2								
		社会学概論	2								
		情報化社会と技術、または、社会調査法入門	2								
		Basic English A	2								
	基礎科目	経済学概論 II		2							
		データ分析と活用、または、ロジカルシンキング		2							
		Development of Multicultural Awareness		2							
		Basic English B		2							
		国際経済論		2							
専門科目	基礎科目	国際社会学		2						10	
		国際文化論			2						
		経済情報分析			2						
		Global Issues、または、Japanese Culture			2						
		文化人類学		2							
	基幹科目	社会思想史		2							
		国際社会と人権		2							
		多文化コミュニケーション		2							
		国際社会と日本文化		2							
		世界経済史		2							
領域科目	基幹科目	日本経済論		2						18	
		認知科学		2							
		ジェンダーと法		2							
		多文化共生論		2							
		国際関係論		2							
	領域科目	国際関係論		2							
		平和と紛争			2						
		アジア文化論			2						
		現代文化論			2						
		地域研究A			2						
発展科目	領域科目	地域研究B、または、地域研究C			2					24	
		環境政策			2						
		文化政策				2					
		生活文化論				2					
		地域研究C				2					
	共創科目	メディアと社会				2					
		グローバル・リサーチB			2						
		国際共創プログラム				2					
		ローカル・ビジネススタディ				2					
		英語7トハント科目					2				
演習科目	演習科目	アカデミックスキル I	2							14	
		アカデミックスキル II		2							
		演習 I			2						
		演習 II				2					
		演習 III					2				
	共創科目	卒業研究 I					2				
		卒業研究 II						2			
		グローバル・リサーチB				2					
		国際共創プログラム					2				
		ローカル・ビジネススタディ						2			
履修合計単位数		22	22	22	20	22	12	2	2	124	

【履修モデル1】 様々な地域の特性や文化に関する知識とグローバルな視点を持ち国際社会で活躍する人材

科目区分	授業科目の名称	配当年次								総単位数	
		1年		2年		3年		4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学共通科目	外国語科目	英語 I a (R&W)	1								30
		英語 I b (L&S)	1								
		第二外国語科目 I a	1								
		第二外国語科目 I b	1								
		英語 II a (R&W)		1							
		英語 II b (L&S)		1							
		第二外国語科目 II a		1							
		第二外国語科目 II b		1							
	ビジネス英語 I			2							
	広域科目	人文地理学	2								
歴史学入門		2									
哲学入門		2									
ヨーロッパの歴史			2								
現代の心理学			2								
現代の政治			2								
地理学入門				2							
健康増進の理論					2						
データサイエンス概論					2						
インターンシップ						2					
基礎科目	入門科目	国際共創入門	2							16	
		経済学概論	2								
		社会学概論	2								
		情報化社会と技術、または、社会調査法入門	2								
		Basic English A	2								
	基礎科目	データ分析と活用、または、ロジカルシンキング		2							
		Basic English B		2							
		Development of Multicultural Awareness		2							
		国際経済論		2							
		国際社会学		2							
専門科目	基礎科目	国際文化論		2						12	
		グローバルビジネス基礎		2							
		Global Issues		2							
		Japanese Culture		2							
		文化人類学		2							
	基幹科目	社会思想史		2							
		国際社会と人権		2							
		多文化コミュニケーション		2							
		国際社会と日本文化		2							
		認知科学		2							
領域科目	基幹科目	宗教と社会			2					18	
		社会システム論			2						
		ジェンダーと法			2						
		多文化共生論			2						
		国際関係論			2						
	領域科目	共生社会学				2					
		平和と紛争				2					
		アジア文化論				2					
		現代文化論				2					
		地域研究A				2					
発展科目	共創科目	環境と社会				2				24	
		文化政策					2				
		生活文化論					2				
		地域研究B					2				
		地域研究C					2				
	共創科目	グローバル・リサーチB				2					
		国際共創プログラム					2				
		Reading and Writing B					2				
		Listening and Speaking B					2				
		Peace and Coexistence						2			
演習科目	演習科目	アカデミックスキル I	2							14	
		アカデミックスキル II		2							
		演習 I			2						
		演習 II				2					
		演習 III					2				
	共創科目	卒業研究 I					2				
		卒業研究 II						2			
		グローバル・リサーチB				2					
		国際共創プログラム					2				
		ローカル・ビジネススタディ						2			

【履修モデル2】 国際社会の仕組みに関する知識と課題解決に向けた方策を学び国際社会に貢献する人材

科目区分	授業科目の名称	配当年次								総単位数	
		1年		2年		3年		4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学共通科目	外国語科目	英語 I a [R&W]	1								10
		英語 I b [L&S]	1								
		第二外国語科目 I a	1								
		第二外国語科目 I b	1								
		英語 II a [R&W]		1							
		英語 II b [L&S]		1							
		第二外国語科目 II a		1							
		第二外国語科目 II b		1							
		ビジネス英語 II			2						
	広域科目	地理学入門	2								
データサイエンス概論		2									
現代と哲学			2								
現代の倫理			2								
アジアの歴史				2							
現代の政治				2							
ヨーロッパの歴史					2						
現代の法					2						
健康増進の理論					2						
インターンシップ						2					
基礎科目		入門科目	国際共創入門	2							18
	経済学概論 I		2								
	社会学概論		2								
	情報化社会と技術、または、社会調査法入門		2								
	Basic English A		2								
	基礎科目	経済学概論 II		2						10	
		データ分析と活用、または、ロジカルシンキング		2							
		Development of Multicultural Awareness		2							
		Basic English B		2							
		国際経済論		2							
専門科目	基礎科目	国際社会論		2					18		
		国際文化論			2						
		経済情報分析				2					
		Global Issues、または、Japanese Culture				2					
		文化人類学			2						
	基礎科目	社会心理学		2					18		
		国際社会と人権		2							
		多文化コミュニケーション		2							
		世界経済史		2							
		アジア経済論		2							
領域科目	基礎科目	政治学			2			24			
		グローバル企業論			2						
		リーダーシップ論			2						
		国際関係論				2					
		共生社会論				2					
	領域科目	平和と紛争				2		24			
		国際開発論				2					
		国際協力論				2					
		環境と社会				2					
		社会ネットワーク論				2					
発展科目	共創科目	文化政策				2		6			
		メディアと社会				2					
		国際社会と外交				2					
		国際保健論				2					
		国際社会と教育				2					
	英語アドバンスト科目	グローバルリサーチA			2			4			
		国際共創プログラム			2						
		ローカルビジネス・スタディ			2						
		English Communication B			2						
		Development and Management			2						
演習科目	アカデミックスキル I	2					14				
	アカデミックスキル II		2								
	演習 I			2							
	演習 II				2						
	演習 III					2					
	卒業研究 I					2					
	卒業研究 II					2					
履修合計単位数		20	22	22	22	20	14	2	2	124	

【履修モデル2】 国際社会の仕組みに関する知識と課題解決に向けた方策を学び国際社会に貢献する人材

科目区分	授業科目の名称	配当年次								総単位数		
		1年		2年		3年		4年				
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
全学共通科目	外国語科目	英語 I a (R&W)	1							10		
		英語 I b (L&S)	1									
		第二外国語科目 I a	1									
		第二外国語科目 I b	1									
		英語 II a (R&W)		1								
		英語 II b (L&S)		1								
		第二外国語科目 II a		1								
		第二外国語科目 II b		1								
		ビジネス英語 I			2							
	広域科目	哲学入門	2								20	
ヨーロッパ史		2										
アジアの歴史		2										
統計学入門			2									
地理学入門			2									
現代の心理学			2									
人文地理学					2							
健康増進の理論					2							
データサイエンス概論					2							
インターンシップ						2						
基礎科目		入門科目	国際共創入門	2						16		
	経済学概論		2									
	社会学概論		2									
	情報化社会と技術、または、社会調査法入門		2									
	Basic English A		2									
	基礎科目	データ分析と活用、または、ロジカルシンキング		2					12			
		Basic English B		2								
		Development of Multicultural Awareness		2								
		国際経済論		2								
		国際社会論		2								
専門科目	基礎科目	国際文化論		2				18				
		グローバルビジネス基礎		2								
		Global Issues		2								
		Japanese Culture		2								
		文化人類学		2								
	基礎科目	国際社会と人権		2				24				
		多文化コミュニケーション		2								
		国際社会と日本文化		2								
		世界経済史		2								
		アジア経済論		2								
領域科目	基礎科目	宗教と社会			2		18					
		NGO-NPO論			2							
		キャリア開発論			2							
		国際関係論			2							
		共生社会論			2							
	基礎科目	平和と紛争				2		24				
		国際開発論				2						
		国際協力論				2						
		環境と社会				2						
		社会ネットワーク論				2						
発展科目	共創科目	グローバルリサーチA			2		4					
		国際共創プログラム			2							
		Listening and Speaking A			2							
		English Communication B			2							
		Development and Management			2							
	英語アドバンスト科目	アカデミックスキル I	2					6				
		アカデミックスキル II		2								
		演習 I			2							
		演習 II				2						
		演習 III					2					
演習科目	卒業研究 I					2	14					
	卒業研究 II					2						
	履修合計単位数		20	22	22	22		20	14	2	2	124

【履修モデル3】人々が暮らす社会や地域をデザインするための知識と実践に向けた考え方をもち地域社会に貢献する人材

Table with columns for subject categories (科目区分), subject names (授業科目の名称), years (1年, 2年, 3年, 4年), and total units (総単位数). Rows include Foreign Language (外国語科目), Broad Area (広域科目), Core (基盤科目), and Specialized (専門科目).

【履修モデル3】人々が暮らす社会や地域をデザインするための知識と実践に向けた考え方をもち地域社会に貢献する人材

Table with columns for subject categories (科目区分), subject names (授業科目の名称), years (1年, 2年, 3年, 4年), and total units (総単位数). Rows include General Education (全学共通科目), Core (基盤科目), Specialized (専門科目), and Development (発展科目).

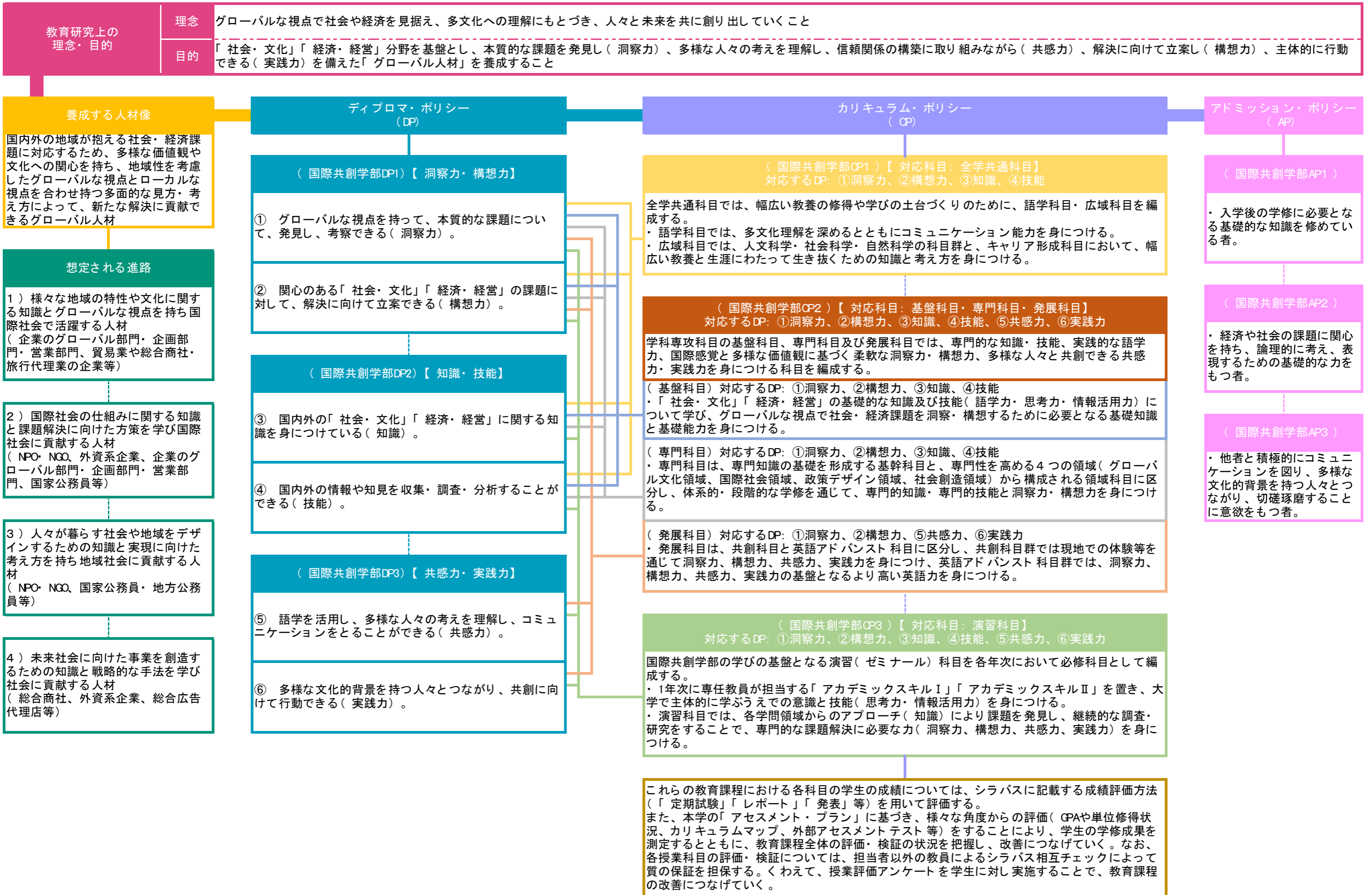
【履修モデル4】 未来社会に向けた事業を創造するための知識と戦略的な手法を学び社会に貢献する人材

科目区分	授業科目の名称	配当年次								総単位数	
		1年		2年		3年		4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学共通科目	外国語科目	英語 I a [R&W]	1								10
		英語 I b [L&S]		1							
		第二外国語科目 I a	1								
		第二外国語科目 I b	1								
		英語 II a [R&W]		1							
	英語 II b [L&S]		1								
	第二外国語科目 II a		1								
	第二外国語科目 II b		1								
	ビジネス英語 I			2							
	広域科目	心理学入門	2								
経営学入門		2									
現代のビジネス			2								
現代と統計			2								
人文地理学				2							
自然地理学				2							
データサイエンス概論				2							
大阪の経済と文化					2						
健康増進の理論					2						
インターンシップ						2					
基礎科目	入門科目	国際共創入門	2							18	
		経済学概論 I	2								
		社会学概論	2								
		情報化社会と技術、または、社会調査法入門	2								
		Basic English A	2								
	経済学概論 II		2								
	データ分析と活用、または、ロジカルシンキング		2								
	Development of Multicultural Awareness		2								
	Basic English B		2								
	基礎科目	国際経済論		2							10
国際社会論			2								
グローバルビジネス基礎				2							
経済情報分析					2						
Global Issues、または、Japanese Culture					2						
専門科目	基幹科目	社会心理学		2						18	
		世界経済史		2							
		アジア経済論		2							
		日本経済論		2							
		社会システム論			2						
	グローバル企業論			2							
	アカウンティング			2							
	NGO・NPO論			2							
	キャリア開発論			2							
	領域科目	ソーシャルキャピタル論			2						24
地方創生論				2							
社会ネットワーク論				2							
地域産業論				2							
ツーリズム論				2							
事業創造論				2							
都市デザイン論					2						
ポランディア論					2						
地域イノベーション					2						
情報産業論					2						
観光産業論				2							
社会的企業論				2							
発展科目	共創科目	ローカル・リサーチB		2						6	
		国際共創プログラム			2						
	英語アドバンス科目	Listening and Speaking B			2						4
演習科目	アカデミックスキル I	2								14	
	アカデミックスキル II		2								
	演習 I				2						
	演習 II					2					
	演習 III						2				
	卒業研究 I							2			
卒業研究 II								2			
履修合計単位数			20	22	22	22	20	14	2	2	124

【履修モデル4】 未来社会に向けた事業を創造するための知識と戦略的な手法を学び社会に貢献する人材

科目区分	授業科目の名称	配当年次								総単位数	
		1年		2年		3年		4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学共通科目	外国語科目	英語 I a (R&W)	1								10
		英語 I b (L&S)		1							
		第二外国語科目 I a	1								
		第二外国語科目 I b	1								
		英語 II a (R&W)		1							
	英語 II b (L&S)		1								
	第二外国語科目 II a		1								
	第二外国語科目 II b		1								
	ビジネス英語 I				2						
	広域科目	哲学入門	2								
アジアの歴史		2									
現代と統計			2								
大阪の経済と文化			2								
現代の心理学			2								
宇宙の科学				2							
健康増進の理論				2							
現代の数学					2						
データサイエンス概論					2						
インターンシップ							2				
基礎科目	入門科目	国際共創入門	2							16	
		経済学概論	2								
		社会学概論	2								
		情報化社会と技術、または、社会調査法入門	2								
		Basic English A	2								
	データ分析と活用、または、ロジカルシンキング		2								
	Basic English B		2								
	Development of Multicultural Awareness		2								
	基礎科目	国際経済論		2							8
		国際社会論		2							
グローバルビジネス基礎				2							
Global Issues				2							
社会心理学				2							
専門科目	基幹科目	世界経済史		2						18	
		アジア経済論		2							
		日本経済論		2							
		クリエイティブシンキング			2						
		社会システム論				2					
	グローバル企業論				2						
	アカウンティング				2						
	NGO・NPO論				2						
	ソーシャルキャピタル論				2						
	領域科目	地方創生論				2					26
社会ネットワーク論					2						
地域産業論					2						
ツーリズム論					2						
事業創造論					2						
メディアと社会						2					
都市デザイン論						2					
ポランディア論						2					
地域イノベーション						2					
情報産業論						2					
観光産業論					2						
社会的企業論					2						
発展科目	共創科目	ローカル・リサーチB			2					6	
		国際共創プログラム				2					
	英語アドバンス科目	Reading and Writing A			2						6
演習科目	英語アドバンス科目	Listening and Speaking B				2				6	
		Urban Geography					2				
	アカデミックスキル I	2								14	
	アカデミックスキル II		2								
	演習 I				2						
	演習 II					2					
演習 III						2					
卒業研究 I							2				
卒業研究 II								2			

## 国際共創学部カリキュラム概念図(教育研究上の理念・目的、養成する人材像ならびに3ポリシーの関係図)



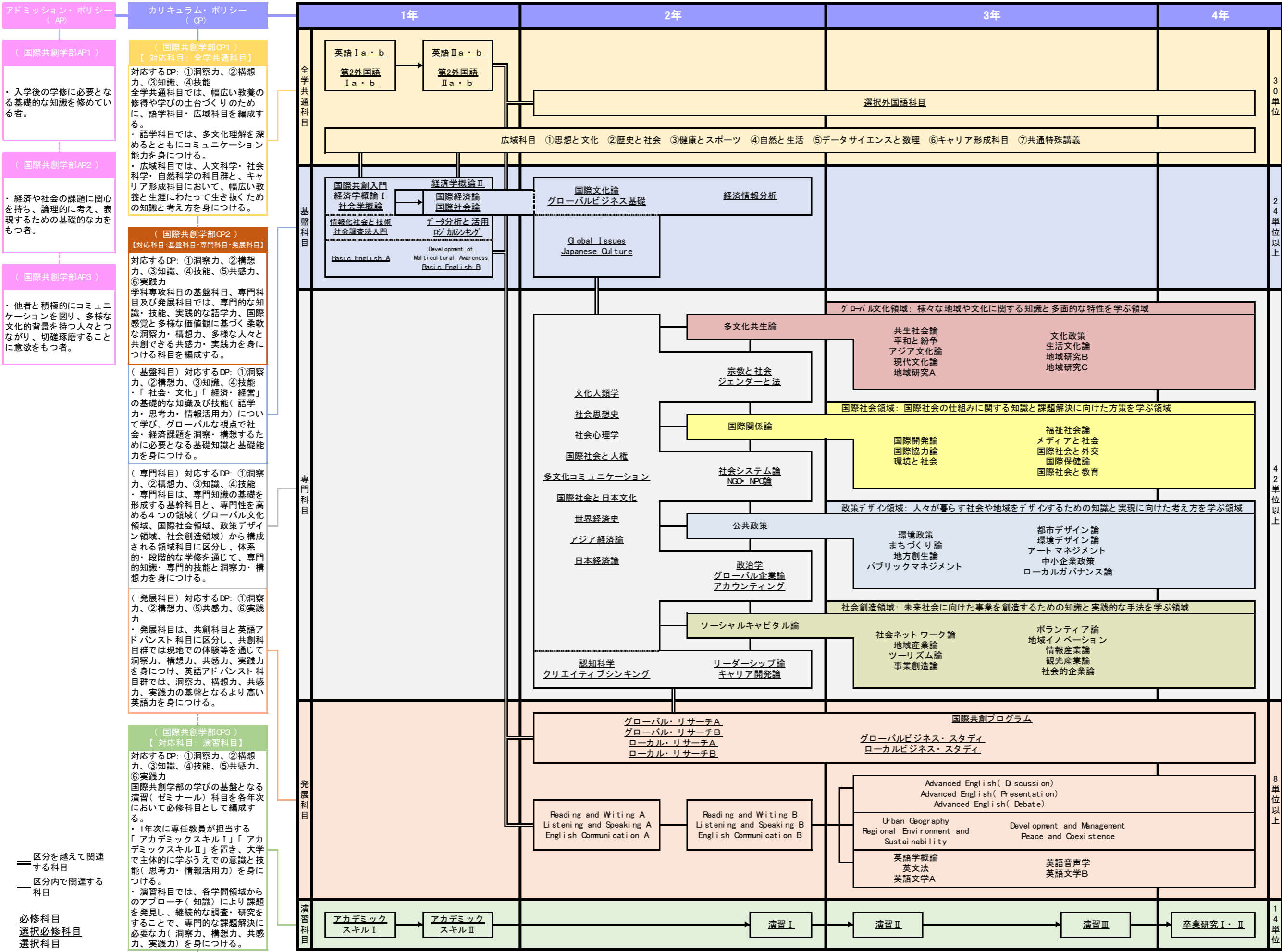




# 国際共創学部カリキュラム概念図(3ポリシーと教育課程の関係図)

新

新



**アドミッション・ポリシー (AP)**  
 (国際共創学部AP1)  
 ・入学後の学修に必要な基礎的な知識を修めている者。

(国際共創学部AP2)  
 ・経済や社会の課題に関心をもち、論理的に考え、表現するための基礎的な力をもつ者。

(国際共創学部AP3)  
 ・他者と積極的にコミュニケーションを図り、多様な文化的背景を持つ人々とつながり、切磋琢磨することに意欲をもつ者。

**カリキュラム・ポリシー (CP)**  
 (国際共創学部CP1)  
 【対応科目: 全学共通科目】  
 対応するDP: ①洞察力、②構想力、③知識、④技能  
 全学共通科目では、幅広い教養の修得や学びの土台づくりのために、語学科目・広域科目を編成する。  
 ・語学科目では、多文化理解を深めるとともにコミュニケーション能力を身につける。  
 ・広域科目では、人文科学・社会科学・自然科学の科目群と、キャリア形成科目において、幅広い教養と生涯にわたって生き抜くための知識と考え方を身につける。

(国際共創学部CP2)  
 【対応科目: 基盤科目・専門科目・発展科目】  
 対応するDP: ①洞察力、②構想力、③知識、④技能、⑤共感力、⑥実践力  
 学科専攻科目の基盤科目、専門科目及び発展科目では、専門的な知識・技能、実践的な語学力、柔軟感覚と多様な価値観に基づく柔軟な洞察力・構想力、多様な人々と共創できる共感力・実践力を身につける科目を編成する。  
 (基盤科目) 対応するDP: ①洞察力、②構想力、③知識、④技能・「社会・文化」「経済・経営」の基礎的な知識及び技能(語学力・思考力・情報活用力)について学び、グローバルな視点で社会・経済課題を洞察・構想するために必要となる基礎知識と基礎能力を身につける。  
 (専門科目) 対応するDP: ①洞察力、②構想力、③知識、④技能・専門科目は、専門知識の基礎を形成する基幹科目と、専門性を高める4つの領域(グローバル文化領域、国際社会領域、政策デザイン領域、社会創造領域)から構成される領域科目に区分し、体系的・段階的な学修を通じて、専門的知識・専門的技能と洞察力・構想力を身につける。  
 (発展科目) 対応するDP: ①洞察力、②構想力、⑤共感力、⑥実践力  
 ・発展科目は、共創科目と英語アドバンスト科目に区分し、共創科目群では現地での体験等を通じて洞察力、構想力、共感力、実践力を身につけ、英語アドバンスト科目群では、洞察力、構想力、共感力、実践力の基盤となるより高い英語力を身につける。

(国際共創学部CP3)  
 【対応科目: 演習科目】  
 対応するDP: ①洞察力、②構想力、③知識、④技能、⑤共感力、⑥実践力  
 国際共創学部の学びの基盤となる演習(ゼミナール)科目を各年次において必修科目として編成する。  
 ・1年次に専任教員が担当する「アカデミックスキルⅠ」「アカデミックスキルⅡ」を置き、大学で主体的に学ぶうえでの意識と技能(思考力・情報活用力)を身につける。  
 ・演習科目では、各学問領域からのアプローチ(知識)により課題を発見し、継続的な調査・研究をすることで、専門的な課題解決に必要な力(洞察力、構想力、共感力、実践力)を身につける。

**ディプロマ・ポリシー (DP)**  
 (国際共創学部DP1)  
 【洞察力・構想力】  
 ① グローバルな視点を持って、本質的な課題について、発見し、考察できる(洞察力)。

(国際共創学部DP2)  
 【知識・技能】  
 ② 関心のある「社会・文化」「経済・経営」の課題に対して、解決に向けて立案できる(構想力)。

(国際共創学部DP3)  
 【共感力・実践力】  
 ③ 国内外の「社会・文化」「経済・経営」に関する知識を身につけている(知識)。  
 ④ 国内外の情報や知見を収集・調査・分析することができる(技能)。  
 ⑤ 語学を活用し、多様な人々の考えを理解し、コミュニケーションをとることができる(共感力)。  
 ⑥ 多様な文化的背景を持つ人々とつながり、共創に向けて行動できる(実践力)。

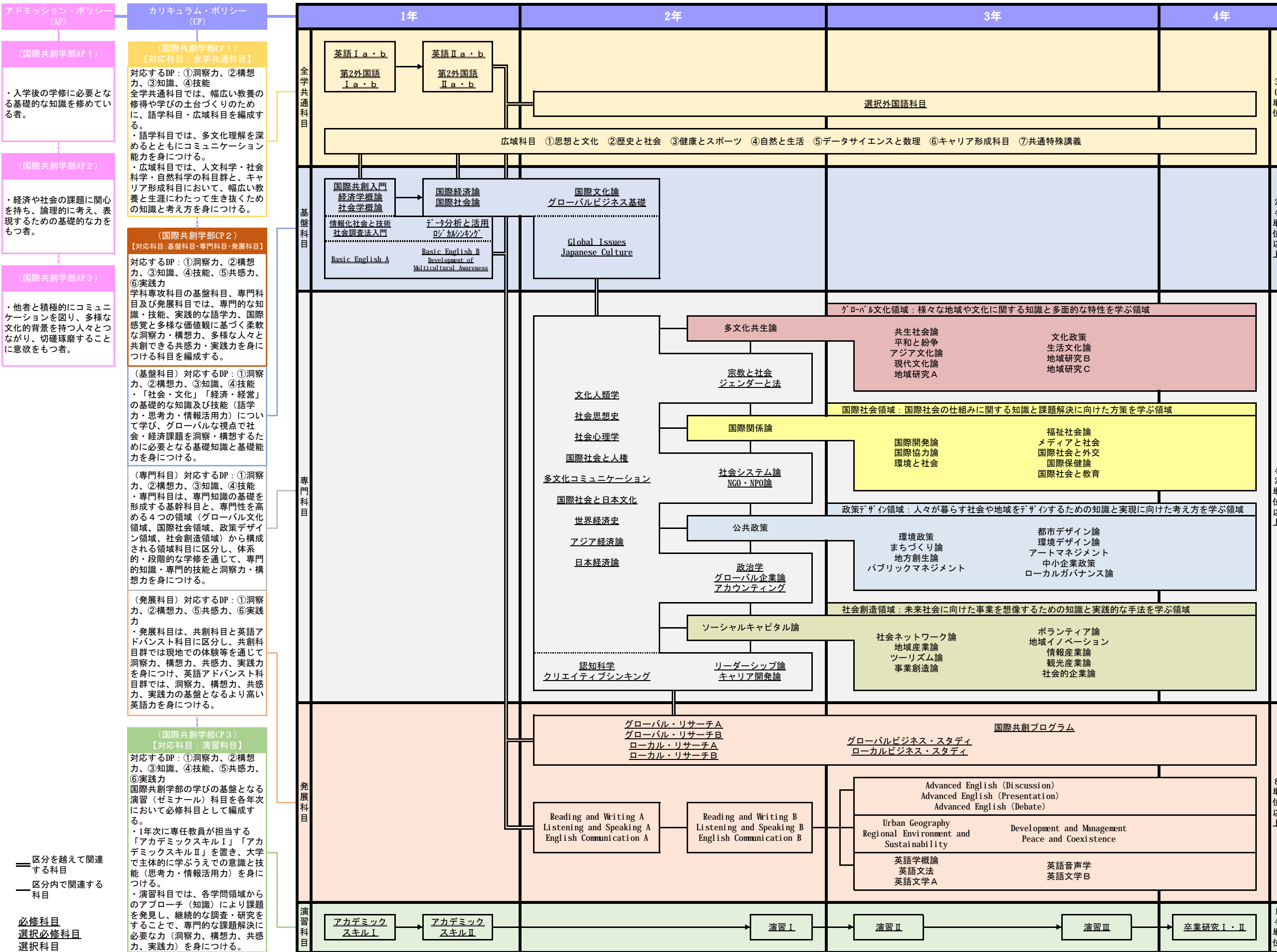
**養成する人材像**  
 国内外の地域が抱える社会・経済課題に対応するため、多様な価値観や文化への関心をもち、地域性を考慮したグローバルな視点とローカルな視点を合わせ持つ多面的な見方・考え方によって、新たな解決に貢献できるグローバル人材

**想定される進路**  
 1) 様々な地域の特性や文化に関する知識とグローバルな視点を持ち国際社会で活躍する人材(企業のグローバル部門・企画部門・営業部門、貿易業や総合商社・旅行代理業の企業等)  
 2) 国際社会の仕組みに関する知識と課題解決に向けた方策を学び国際社会に貢献する人材(NPO・NGO、外資系企業、企業のグローバル部門・企画部門・営業部門、国家公務員等)  
 3) 人々が暮らす社会や地域をデザインするための知識と実現に向けた考え方をもち地域社会に貢献する人材(NPO・NGO、国家公務員・地方公務員等)  
 4) 未来社会に向けた事業を創造するための知識と戦略的な手法を学ぶ社会に貢献する人材(総合商社、外資系企業、総合広告代理店等)

これらの教育課程における各科目の学生の成績については、シラバスに記載する成績評価方法(「定期試験」「レポート」「発表」等)を用いて評価する。また、本学の「アセスメント・プラン」に基づき、様々な角度からの評価(CPAや単位修得状況、カリキュラムマップ、外部アセスメントテスト等)をすることにより、学生の学修成果を測定するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握し、改善につなげていく。なお、各授業科目の評価・検証については、担当者以外の教員によるシラバス相互チェックによって質の保証を担保する。くわえて、授業評価アンケートを学生に対し実施することで、教育課程の改善につなげていく。



# 国際共創学部カリキュラム概念図 (3ポリシーと教育課程の関係図)



区分を越えて関連する科目  
 区分内で関連する科目

必修科目  
 選択必修科目  
 選択科目

ディプロマ・ポリシー (DP)

(国際共創学部DP1) 【洞察力・構想力】

① グローバルな視点を持って、本質的な課題について、発見し、考察できる (洞察力)。

② 関心のある「社会・文化」「経済・経営」の課題に対して、解決に向けて立案できる (構想力)。

(国際共創学部DP2) 【知識・技能】

③ 国内外の「社会・文化」「経済・経営」に関する知識を身につけている (知識)。

④ 国内外の情報や知見を収集・調査・分析することができる (技能)。

(国際共創学部DP3) 【共感力・実践力】

⑤ 語学を活用し、多様な人々の考えを理解し、コミュニケーションをとることができる (共感力)。

⑥ 多様な文化的背景を持つ人々とならび、共創に向けて行動できる (実践力)。

養成する人材像

多様な価値観や文化への関心を持ち、地域性を考慮したグローバルな視点とローカルな視点を合わせ持つ多面的な見方・考え方によって、新たな解決に貢献できるグローバル人材

想定される進路

1) 様々な地域の特性や文化に関する知識とグローバルな視点を持ち国際社会で活躍する人材 (企業のグローバル部門・企画部門・営業部門、貿易業や総合商社・旅行代理業の企業等)

2) 国際社会の仕組みに関する知識と課題解決に向けた方策を学び国際社会に貢献する人材 (NPO・NGO、外資系企業、企業のグローバル部門・企画部門・営業部門、国家公務員等)

3) 人々が暮らす社会や地域をデザインするための知識と実現に向けた考え方をもち地域社会に貢献する人材 (NPO・NGO、国家公務員・地方公務員等)

4) 未来社会に向けた事業を創造するための知識と戦略的な手法を学び社会に貢献する人材 (総合商社、外資系企業、総合広告代理店等)

これらの教育課程における各科目の学生の成績については、シラバスに記載する成績評価方法 (「定期試験」「レポート」「発表」等) を用いて評価する。また、本学の「アセスメント・プラン」に基づき、様々な角度からの評価 (GPAや単位修得状況、カリキュラムマップ、外部アセスメントテスト等) をすることにより、学生の学修成果を測定するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握し、改善につなげていく。なお、各授業科目の評価・検証については、担当者以外の教員によるシラバス相互チェックによって質の保証を担保する。くわえて、授業評価アンケートを学生に対し実施することで、教育課程の改善につなげていく。



## 経済学関係科目一覧

配当年次						科目数 単位数
1年		2年		3・4年		
前期	後期	前期	後期	前期	後期	
国際共創入門 経済学概論Ⅰ	経済学概論Ⅱ 国際経済論	グローバルビジネス基礎 Global Issues 世界経済史 アジア経済論 日本経済論	経済情報分析 グローバル企業論 アカウンティング NGO・NPO論 リーダーシップ論 国際関係論 公共政策 ソーシャルキャピタル論	共生社会論 国際開発論 国際協力論 環境政策 まちづくり論 地方創生論 パブリックマネジメント 地域産業論 ツーリズム論 事業創造論 グローバル・リサーチA グローバル・リサーチB ローカル・リサーチA ローカル・リサーチB 国際共創プログラム グローバルビジネス・スタディ ローカルビジネス・スタディ Urban Geography Regional Environment and Sustainability	文化政策 福祉社会論 国際社会と外交 都市デザイン論 環境デザイン論 アートマネジメント 中小企業政策 ローカルガバナンス論 ボランティア論 地域イノベーション 情報産業論 観光産業論 社会的企業論 Development and Management	50科目 100単位

必修科目  
選択必修科目  
選択科目

基本情報			
科目名	経済学概論 I	担当者名	(①) 内藤雅一
配当年次/単位数	1 前/2 単位	授業形態	講義
必修・選択区分	必修	科目区分	A-1 入門科目
授業概要			
授業内容	本授業は、人間行動の意思決定に利用できる経済ツールと分析アプローチの概要を説明するものである。具体的には、ミクロ経済学を利用して、企業、政府、個人の構造や意思決定、取引、契約などについて学ぶ。ミクロ経済学とマクロ経済学はすべての経済分析の基礎である。本授業では、前半のミクロ経済学や後半のデータ分析の経済学の基本的な仮説を提示し、現実世界の状況を調べる際にこれらの仮説が広く影響を与えることを説明する。		
授業方法	資料を配布し、動画やスライド等をプロジェクタに映して説明する。復習用 Web テストを毎回終了後に知らせる。		
到達目標	自分の身の回りで起きている事象を、ミクロ経済学の基礎知識を用いて説明できる。 ・ DP との関係： DP1「洞察力・構想力」、DP2「知識・技能」に該当		
評価方法	課題：30% 講義内で課すミニレポート Web テスト：20% 講義以外の時間にネットで課す問題集 定期試験：50% 記述式		
テキスト	交換の物語第3版 内藤雅一著 Amazon Ink ASIN:B09W4P7BQC マンキュー入門経済学第3版 N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社 事前配布資料及び復習用 Web テストの情報は、第1回講義時に知らせる。		
参考文献	クルーグマン ミクロ経済学 第2版 ポールクルーグマン、ロビンウェルス著 東洋経済新報社 スティグリッツ入門経済学第4版 スティグリッツ, J. E. 著 東洋経済新報社 原因と結果の経済学 中室牧子、津川友介 著 ダイヤモンド社		
学生への要望	特になし		

授業計画				
回	主題	内容	自主学習	備考
1	経済学とは何か	経済学とは具体的に何を学ぶ学問かを理解する。経済学についてわかりやすく解説する予定である。ミクロ経済学とマクロ経済学の違いを扱い、科学としての経済学を考える。	予習(2時間)：「マンキュー入門経済学」第1・2章を読む。「スティグリッツ入門経済学」第1章を読む。 復習(2時間)：Web テスト	
2	経済学の基本原理	合理性、希少性、インセンティブ、機会費用、トレードオフなどの基本的経済学的思考を理解する。	予習(2時間)：「交換の物語第3版」の第1章を読む。「スティグリッツ入門経済学」第2章を読む。 復習(2時間)：Web テスト	
3	インセンティブの力	インセンティブの力が組織や個人の行動に与える影響や効果的なインセンティブについて学ぶ。	予習(2時間)：「交換の物語第3版」の第1章を読む。「スティグリッツ入門経済学」第2章を読む。 復習(2時間)：Web テスト	
4	需要と供給(1)	需要曲線と供給曲線を理解する。そして、市場均衡と価格メカニズムを考える。	予習(2時間)：「マンキュー入門経済学」第4・5章を読む。「交換の物語第3版」の第3章を読む。 復習(2時間)：Web テスト	
5	需要と供給(2)	価格メカニズムと市場の有用性と、需要と供給の変動要因を理解する。	予習(2時間)：「マンキュー入門経済学」第4章を読む。「交換の物語第3版」の第3章を読む。 復習(2時間)：Web テスト	
6	弾力性の世界	需要の弾力性や供給の弾力性について解説する。需要の価格弾力性、所得弾力性、交差価格弾力性について理解する。需要と供給の関係を探求する中で、価格弾力性や収益弾力性などの弾力性の概念を理解する。	予習(2時間)：「マンキュー入門経済学」第5章付論1を読む。「交換の物語第3版」の第4章を読む。「スティグリッツ入門経済学」第5章を読む。 復習(2時間)：Web テスト	
7	市場介入と需要曲線と供給曲線	市場介入が需要曲線と供給曲線に及ぼす影響や市場の均衡への影響、さらに市場介入の効果について学ぶ。市場介入の理論的背景や実際の事例を探求することで、市場メカニズムと政府の役割について深く理解することができる。	予習(2時間)：「交換の物語第3版」の第5章を読む。 復習(2時間)：Web テスト	
8	生産と費用	生産関数と限界生産力を理解する。短期的な費用概念(固定費と可変費)と長期的な費用概念(固定費と変動費)を理解する。	予習(2時間)：「マンキュー入門経済学」第5・6章を読む。 復習(2時間)：Web テスト	

9	市場の効率性	効率的な市場の条件とは何かを理解する。そして、政府の失敗を考える。	予習 (2 時間) : 「マンキュー入門経済学」第 6 章を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
10	競争市場	完全競争市場の特徴と利益最大化を理解する。	予習 (2 時間) : 「スティグリッツ入門経済学」第 5 章を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
11	独占	独占の形成と市場の歪みと寡占市場と独占的競争市場を理解する。	予習 (2 時間) : 「スティグリッツ入門経済学」第 6 章を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
12	外部性	正の外部性と負の外部性の違いを理解し、公共財と市場の失敗を考える。	予習 (2 時間) : 「マンキュー入門経済学」第 7 章を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
13	因果関係と相関関係 (1)	根拠のない通説に騙されないために「因果推論」の根拠にある考え方を学ぶ。	予習 (2 時間) : 「原因と結果の経済学」第 1・2・3 章を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
14	因果関係と相関関係 (2)	因果関係を推定するための方法や注意点について学ぶ。相関関係がある場合でも因果関係を結論することはできないことを強調し、実験デザインや観察データの解析における因果関係の推定手法についても学ぶ。	予習 (2 時間) : 「原因と結果の経済学」第 4・5・6・7 章を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
15	経済学の応用と現代の課題、そして学ぶ意味とは何か	環境経済学と持続可能性や、行動経済学と意思決定を論ずる。技術革新と経済の未来を理解し、経済学を学ぶ意味を考える。	予習 (2 時間) : 全体の復習。 復習 (2 時間) : Web テスト	

基本情報			
科目名	経済学概論Ⅱ	担当者名	(①) 内藤 雅一
配当年次/単位数	1 後/2 単位	授業形態	講義
必修・選択区分	必修	科目区分	A-1 入門科目

授業概要	
授業内容	<p>本授業では、ミクロ経済学、マクロ経済学を中心とした経済学の知識を理解し、経済課題の解決策について検討できるようになることを目的として、講義を行う。具体的には、市場の失敗、政府の失敗などの原因とその対策について、時事問題も取り上げながら学んでいく。</p> <p>ミクロ経済学パートでは、時間とリスク、市場の失敗、政府の失敗などの学修を通じて、ミクロ経済学についての理解を深めていく。マクロ経済学パートでは、ミクロ経済学とは異なる集計的分析を中心に講義を行い、マクロ経済学についての理解を深めていく。このパートでは、労働市場と賃金や経済成長などについて学修することにより、政策的問題を理解するために必要な知識を修得していく。</p> <p>これらの講義を通じて、経済学の知識を身につけ、経済課題の解決策を検討する基礎を養っていく。</p>
授業方法	資料を配布し、動画やスライド等をプロジェクタに映して説明する。復習用 Web テストを毎回終了後に知らせる。
到達目標	<p>近年の経済に関する時事問題を1つ取り上げ、その原因を解決案とともに説明できる。</p> <p>・DP との関係： DP1「洞察力・構想力」、DP2「知識・技能」に該当</p>
評価方法	<p>課題：30% 講義内で課すミニレポート</p> <p>Web テスト：20% 講義以外の時間にネットで課す問題集</p> <p>定期試験：50% 記述式</p>
テキスト	<p>スティグリッツ入門経済学第4版 スティグリッツ, J. E. 著 東洋経済新報社</p> <p>マンキュー入門経済学第3版 N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社</p> <p>事前配布資料及び復習用 Web テストの情報は、第1回講義時に知らせる。</p>
参考文献	<p>クルーグマン ミクロ経済学 第2版 ポールクルーグマン、ロビンウェルス著 東洋経済新報</p> <p>クルーグマン マクロ経済学 第2版 ポール クルーグマン著 東洋経済新報社</p>
学生への要望	特になし

授業計画				
回	主題	内容	自主学习	備考
1	経済学概論Ⅰの復習	経済学概論Ⅰの内容を振り返りながら、経済学の基本原理から需要と供給の世界を外観し、外部性と独占について復習する。	<p>予習(2時間):「マンキュー入門経済学」第1・2・3・4・5・6・7章を読む。</p> <p>復習(2時間): Web テスト</p>	
2	時間とリスク	金融市場や経済活動における利子の役割やリスク市場の働き、企業家精神が経済成長に与える影響などについて解説する。また、実際の事例や経済の動向と関連付けながら、理論を実践的な視点から理解する。	<p>予習(2時間):「スティグリッツ入門経済学」第6章を読む。</p> <p>復習(2時間): Web テスト</p>	
3	市場の失敗	市場の不完全性や情報の非対称性など市場の失敗要因、公共財や外部性の問題、政府の過剰介入や財政の効率性に関して考察する。また、政府と市場の連携と改善策について理解する。	<p>予習(2時間):「スティグリッツ入門経済学」第7章5節を読む。</p> <p>復習(2時間): Web テスト</p>	
4	政府の失敗	公共財の過小供給や外部性の市場への影響、市場の不完全性と修正政策の役割、政府の過剰介入と市場の歪み、政府の予算制約と効率性などについて学ぶ。政府の役割と制約、経済政策の課題について理解する。	<p>予習(2時間):「スティグリッツ入門経済学」第7章7節を読む。</p> <p>復習(2時間): Web テスト</p>	
5	マクロ経済学入門	マクロ経済学の導入として、GDPと国民所得、消費と貯蓄、投資と資本形成について学ぶ。	<p>予習(2時間):「マンキュー入門経済学」第8章を読む。「スティグリッツ入門経済学」第8章1節を読む。</p> <p>復習(2時間): Web テスト</p>	
6	労働市場と賃金	労働市場の需給関係を論じる。労働市場の非効率性と政策介入を理解する。賃金の決定要因を理解する。	<p>予習(2時間):「スティグリッツ入門経済学」第8章6節を読む。</p> <p>復習(2時間): Web テスト</p>	
7	経済成長	国際的な観点から見ると、経済成長は世界全体で起きているということに重点を置いて、いくつかの国々が他の国々より成長に成功したのはなぜか説明をおこなう。	<p>予習(2時間):「マンキュー入門経済学」第10章を読む。</p> <p>復習(2時間): Web テスト</p>	
8	インフレーションとデフレーション	インフレとデフレの定義とインフレの原因と影響を理解する。デフレの原因と影響を理解する。	<p>予習(2時間):「スティグリッツ入門経済学」第11章1節を読む。</p> <p>復習(2時間): Web テスト</p>	
9	貯蓄、投資と金融システム	貯蓄と投資の関係や金融システムの機能と役割を理解し、金融機関や金融市場の働き、中央銀行や金融	<p>予習(2時間):「マンキュー入門経済学」第11章を読む。</p>	



		政策の役割を学ぶ。経済における資金の流れや金融の役割を通じて、経済の安定性や成長の要素を分析し、金融システムの重要性を理解する。	復習 (2 時間) : Web テスト	
10	貨幣	お金の機能と貨幣供給について説明する。金融市場と金利の基本を学ぶ。	予習 (2 時間) : 「マンキュー入門経済学」第 11 章付論 1 を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
11	総需要と総供給	総需要と総供給の相互作用や経済の均衡状態について理解し、経済変動や政策の効果を考える。具体的な例を用いて、現実の経済現象や政策の影響を分析する。	予習 (2 時間) : 「マンキュー入門経済学」第 12 章を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
12	財政政策	財政政策の効果と限界と財政赤字と公共債務を理解する。	予習 (2 時間) : 「スティグリッツ入門経済学」第 7 章を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
13	金融政策と中央銀行	中央銀行の役割と機能や、金融政策の手法と効果と、金融政策の課題と限界について説明する。	予習 (2 時間) : 「マンキュー入門経済学」第 11 章を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
14	開放マクロ経済学の基本的概念	開放マクロ経済学の基本的な概念について理解し、国内総生産、失業、インフレーション、貨幣と中央銀行、産出ギャップと景気循環、国際収支と国際投資などの要素について学ぶ。	予習 (2 時間) : 「マンキュー入門経済学」第 13 章を読む。 復習 (2 時間) : Web テスト	
15	講義の総括	国際共創と経済学の関係性について、これまでの講義を振り返りながら考察する。	予習 (2 時間) : 全体の復習。 復習 (2 時間) : Web テスト	

基本情報			
科目名	社会学概論	担当者名	(9) 藤本典嗣 (16) 河村 賢 (2) 難波孝志
配当年次/単位数	1前/2単位	授業形態	講義(オムニバス方式)
必修・選択区分	必修	科目区分	A-1 入門科目

授業概要	
授業内容	社会学は、社会における現象の実体やその要因について、実証的に分析・研究する学問分野である。本授業では、社会や社会現象を分析していくために必要となる知識と視点について概観し、学修していく。具体的には、社会を構成する集団や組織、科学技術やメディア、社会で起こる人権問題、地域問題などを取り上げ、社会やその構成要素、課題について学修していく。これらの学修を通じて基本的な社会の捉え方を理解し、その上で、社会学的な視点で社会を分析し、課題を抽出し、解決するための手法を考える基礎を養うことを目的とする。  【キーワード】社会、家族、社会と地域、社会と教育
授業方法	資料を配布し、パワーポイント等を用いて説明する。
到達目標	(1) 社会学に関する基礎的な視点・考え方について、説明することができる。 (2) 社会学で取り上げられるテーマの基本的事項について、説明することができる。  ・DPとの関係： DP1「洞察力・構想力」、DP2「知識・技能」に該当
評価方法	課題への取組：30% 講義で課すミニレポートの提出、結果 定期試験：70% 定期試験の結果(記述式)  ・フィードバックの方法：講義内の課題については、講義において行う。定期試験の講評については、学内システム(KVC)を用いて行う。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
学生への要望	特になし

授業計画				
回	主題	内容	自主学習	備考
1	社会学をどのように学ぶか	授業の進め方と学修の要点について説明する。また社会学を学ぶ上での基本的視座について講義する。	授業内容の予習(1時間):社会学とは何か、文献等で調べる 復習(3時間):授業で配布された資料等を用いて、社会学とは何か整理する	担当:河村賢
2	社会的事実についての知識はいかにして可能か	ある社会で通用する規範・ルール・制度は、他の社会とは異なる固有の様相を持っていることがしばしばである。こうした多様な社会的事実についての客観的な認識はどのようにすれば得られるのかという見直しについて、知識の社会的基盤について論じてきた科学社会学と社会哲学双方の蓄積を踏まえて講義する。	授業内容の予習(1時間):社会学における客観性問題について、文献等で調べる 復習(3時間):授業で配布された資料等を用いて、社会的事実の存在論と認識論の関係について整理する	担当:河村賢
3	社会的実践としての科学	科学者は、研究機関に所属し、組織内での役割に応じて実験や調査を行い、その成果を社会に還元するという意味において、他の職業と同じく社会的実践に従事している。科学者集団についての社会学研究の展開を論じることで、役割・組織・規範といった社会学の基礎概念の導入を行う。	授業内容の予習(1時間):社会学の基礎概念について、文献等で調べる 復習(3時間):授業で配布された資料等を用いて、科学者の社会的側面について整理する	担当:河村賢
4	メディアのなかの社会規範	現代のメディア作品をいくつか例にとりながら、そこで描かれる人々の家族や職業などのカテゴリーを理解できるのは私たちが持っている社会規範を参照することによってであることを、エスノメソドロジの視点から分析する。	授業内容の予習(1時間):これまで見たメディア作品を思い出し、カテゴリーがどのように描かれていたか考える 復習(3時間):授業で配布された資料等を用いて、メディアにおける社会規範の作動について整理する	担当:河村賢
5	個人と社会	本学のロゴにも使われている「つながる力。」の「つながる」とは何か。人と人とのつながりについて、個人と社会の関りから論じる。	授業内容の予習(1時間)社会的行為論について、文献等で調べる。 復習(3時間):授業内容を踏まえて、社会的行為、相互行為に関する事例を調べ、整理する。	担当:難波孝志
6	社会集団と社会的ネットワーク	社会集団について理論的に整理し、コミュニティ論から社会的ネットワーク論へのパラダイム転換について考える。	授業内容の予習(1時間)社会集団について、文献等で調べる。 復習(3時間):授業内容を踏まえて、社会集団と社会的ネット	担当:難波孝志

基本情報			
科目名	社会学概論	担当者名	(4) 小林直三 (9) 藤本典嗣 (16) 河村 賢
配当年次/単位数	1前/2単位	授業形態	講義(オムニバス方式)
必修・選択区分	必修	科目区分	A-1 入門科目

授業概要	
授業内容	社会学は、社会における現象の実体やその要因について、実証的に分析・研究する学問分野である。本授業では、社会や社会現象を分析していくために必要となる知識と視点について概観し、学修していく。具体的には、社会を構成する集団や組織、科学技術やメディア、社会で起こる人権問題、地域問題などを取り上げ、社会やその構成要素、課題について学修していく。これらの学修を通じて基本的な社会の捉え方を理解し、その上で、社会学的な視点で社会を分析し、課題を抽出し、解決するための手法を考える基礎を養うことを目的とする。  【キーワード】社会、家族、社会と地域、社会と教育、社会と人権
授業方法	資料を配布し、パワーポイント等を用いて説明する。
到達目標	(1) 社会学に関する基礎的な視点・考え方について、説明することができる。 (2) 社会学で取り上げられるテーマの基本的事項について、説明することができる。  ・DPとの関係： DP1「洞察力・構想力」、DP2「知識・技能」に該当
評価方法	課題への取組：30% 講義で課すミニレポートの提出、結果 定期試験：70% 定期試験の結果(記述式)  ・フィードバックの方法：講義内の課題については、講義において行う。定期試験の講評については、学内システム(KVC)を用いて行う。
テキスト	特になし
参考文献	特になし
学生への要望	特になし

授業計画				
回	主題	内容	自主学習	備考
1	社会学をどのように学ぶか	授業の進め方と学修の要点について説明する。また社会学を学ぶ上での基本的視座について講義する。	授業内容の予習(1時間):社会学とは何か、文献等で調べる 復習(3時間):授業で配布された資料等を用いて、社会学とは何か整理する	担当:河村賢
2	社会的事実についての知識はいかにして可能か	ある社会で通用する規範・ルール・制度は、他の社会とは異なる固有の様相を持っていることがしばしばである。こうした多様な社会的事実についての客観的な認識はどのようにすれば得られるのかという見直しについて、知識の社会的基盤について論じてきた科学社会学と社会哲学双方の蓄積を踏まえて講義する。	授業内容の予習(1時間):社会学における客観性問題について、文献等で調べる 復習(3時間):授業で配布された資料等を用いて、社会的事実の存在論と認識論の関係について整理する	担当:河村賢
3	社会的実践としての科学	科学者は、研究機関に所属し、組織内での役割に応じて実験や調査を行い、その成果を社会に還元するという意味において、他の職業と同じく社会的実践に従事している。科学者集団についての社会学研究の展開を論じることで、役割・組織・規範といった社会学の基礎概念の導入を行う。	授業内容の予習(1時間):社会学の基礎概念について、文献等で調べる 復習(3時間):授業で配布された資料等を用いて、科学者の社会的側面について整理する	担当:河村賢
4	メディアのなかの社会規範	現代のメディア作品をいくつか例にとりながら、そこで描かれる人々の家族や職業などのカテゴリーを理解できるのは私たちが持っている社会規範を参照することによってであることを、エスノメソドロジの視点から分析する。	授業内容の予習(1時間):これまで見たメディア作品を思い出し、カテゴリーがどのように描かれていたか考える 復習(3時間):授業で配布された資料等を用いて、メディアにおける社会規範の作動について整理する	担当:河村賢
5	情報社会と人権	Society5.0の構築等、情報社会の進展に向けて個人情報活用の活用が求められている一方で、個人情報保護も重要となっている。それらを踏まえつつ、個人情報保護の歴史的展開や近時の法改正等を概説した上で、これからの社会における個人情報保護について考える。	授業内容の予習(1時間)情報社会と人権について、文献等で調べる 復習(3時間):授業で配布された資料を参照しながら、情報社会と人権に関する事例を調べ、整理する。	担当:小林直三
6	情報社会とガバナンス	インターネットの発展に伴い、集団の極化現象が指摘されている。そのことを踏まえて上で、社会の分断を乗り越える民主主義のあり方について考える。	授業内容の予習(1時間)情報社会とガバナンスについて、文献等で調べる 復習(3時間):授業で配布され	担当:小林直三

			ワーク論について整理する。	
7	情報社会におけるコピーと削除	情報社会はコピーが満ち溢れる社会であって、もしかしたらオリジナルを見つけるのが難しいのかもしれない。また SNS の友だちは簡単に削除できるが、人間関係は簡単に削除できるのか。情報社会の諸問題について社会学的に考える。	授業内容の予習(1時間):情報社会におけるアイデンティティについて、文献等で調べる。 復習(3時間):授業内容を踏まえて、情報とアイデンティティについて整理する。	担当:難波孝志
8	日本の「イエ」制度とジェンダー	SDG s でもジェンダー平等が求められているが、日本のジェンダーギャップ指数は非常に低い。日本におけるかつての「イエ」制度について概説し、これからの課題について歴史的・社会学的に考える。	授業内容の予習(1時間):ジェンダー問題について、文献等で調べる。 復習(3時間):授業内容を踏まえて、ジェンダー問題について歴史的・社会学的に整理する。	担当:難波孝志
9	沖縄社会における構造的差別	一見すると平等な社会に見えても、日本には様々な構造的差別がある。そのことを踏まえて、それらの構造的差別の解消のための施策について考える。	授業内容の予習(1時間):構造的差別問題について、文献等で調べる。 復習(3時間):授業内容を踏まえて、構造的差別問題を解決する施策等について整理する。	担当:難波孝志
10	地域社会と中心地(都市社会と農村社会の結節)	都市と農村の違いを結節機関の集積から論じた、鈴木榮太郎の農村社会学原理を説明する。	授業内容の予習(1時間):農村社会学について、文献等で調べる 復習(3時間) 授業で配布された資料等を用いて、都市と農村について整理する。	担当:藤本典嗣
11	地域社会とグローバル化	グローバル化により地域社会がどのように変容したのか、世界都市論・グローバル都市論を基に説明する。	授業内容の予習(1時間):地域社会とグローバル化について、文献等で調べる 復習(3時間) 授業で配布された資料等を用いて、地域社会とグローバル化について整理する。	担当:藤本典嗣
12	産業と社会(産業概念とその歴史的推移)	産業構造の変容が、社会にどのような変化をもたらしたのか、さらに変化の法則について説明する。	授業内容の予習(1時間):わが国における産業構造の変容について、文献等で調べる 復習(3時間) 授業で配布された資料等を用いて、産業構造の変容が、社会にどのような変化をもたらしたのか整理する。	担当:藤本典嗣
13	地域社会と雇用	産業毎に異なる就業構造の実態と、特定職業の地域的偏重が地域社会の格差を生じさせることを説明する。	授業内容の予習(1時間):地域社会と雇用について、文献等で調べる 復習(3時間) 授業で配布された資料等を用いて、わが国の雇用の実態と地域社会の格差について整理する。	担当:藤本典嗣
14	地域格差と産業	情報通信業など成長型産業の立地が、特定の都市に集中することにより生じる地域社会の格差を説明する。	授業内容の予習(1時間):産業と地域社会の格差について、文献等で調べる 復習(3時間) 授業で配布された資料等を用いて、産業と地域社会の格差について整理する。	担当:藤本典嗣
15	授業の総括	近代以降の社会変化が、科学、家族、職業、情報技術、地域社会についての私たちの規範を作り出してきたこと、社会学とは何よりもそのような規範的事実について記述的にアプローチする学問であることを確認し、講義全体のまとめとする。	授業内容の予習(1時間):これまで授業で配布された資料を再読する 復習(3時間) これまで授業で配布された資料等をまとめ、授業内容全体を復習する	担当:河村賢

				た資料等を用いて、情報化社会とガバナンスについて、現状を踏まえながら、そのあり方について整理する。	
7	グローバル社会と人権	本来的には憲法は国民の人権を保障するものだが、グローバル社会では、国境を越えて人々が移動し関係を形成するため、外国人の人権保障が問題となる。そのことを踏まえて、外国人の人権保障について考える。		授業内容の予習(1時間):グローバル社会における人権について、文献等で調べる 復習(3時間):授業で配布された資料等を用いて、外国人の人権保障について整理する。	担当:小林直三
8	ジェンダー問題と社会	SDG s でもジェンダー平等が求められているが、日本のジェンダーギャップ指数は非常に低い。そのことを踏まえつつ、日本におけるこれまでの施策・法令を概説し、これからの課題について考える。		授業内容の予習(1時間):ジェンダー問題について、文献等で調べる 復習(3時間):授業で配布された資料等を用いて、わが国を中心にジェンダー問題について整理する。	担当:小林直三
9	構造的差別と社会	一見すると平等な社会に見えても、日本には様々な構造的差別がある。そのことを踏まえて、それらの構造的差別の解消のための施策について考える。		授業内容の予習(1時間):構造的差別問題について、文献等で調べる 復習(3時間) 授業で配布された資料等を用いて、構造的差別問題を解決する施策等について整理する。	担当:小林直三
10	地域社会と中心地(都市社会と農村社会の結節)	都市と農村の違いを結節機関の集積から論じた、鈴木榮太郎の農村社会学原理を説明する。		授業内容の予習(1時間):農村社会学について、文献等で調べる 復習(3時間) 授業で配布された資料等を用いて、都市と農村について整理する。	担当:藤本典嗣
11	地域社会とグローバル化	グローバル化により地域社会がどのように変容したのか、世界都市論・グローバル都市論を基に説明する。		授業内容の予習(1時間):地域社会とグローバル化について、文献等で調べる 復習(3時間) 授業で配布された資料等を用いて、地域社会とグローバル化について整理する。	担当:藤本典嗣
12	産業と社会(産業概念とその歴史的推移)	産業構造の変容が、社会にどのような変化をもたらしたのか、さらに変化の法則について説明する。		授業内容の予習(1時間):わが国における産業構造の変容について、文献等で調べる 復習(3時間) 授業で配布された資料等を用いて、産業構造の変容が、社会にどのような変化をもたらしたのか整理する。	担当:藤本典嗣
13	地域社会と雇用	産業毎に異なる就業構造の実態と、特定職業の地域的偏重が地域社会の格差を生じさせることを説明する。		授業内容の予習(1時間):地域社会と雇用について、文献等で調べる 復習(3時間) 授業で配布された資料等を用いて、わが国の雇用の実態と地域社会の格差について整理する。	担当:藤本典嗣
14	地域格差と産業	情報通信業など成長型産業の立地が、特定の都市に集中することにより生じる地域社会の格差を説明する。		授業内容の予習(1時間):産業と地域社会の格差について、文献等で調べる 復習(3時間) これまで授業で配布された資料等をまとめ、授業内容全体を復習する	担当:河村賢